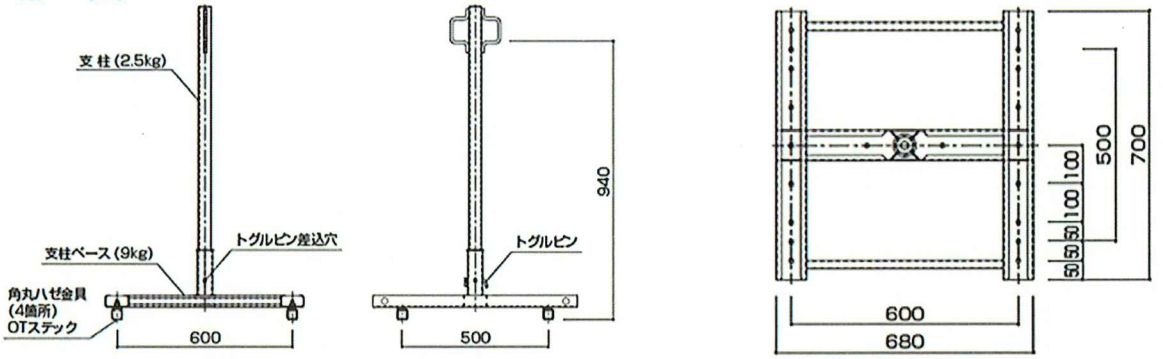
# 折板屋根用親綱支柱

支柱関連

ショッピングセンター、倉庫など大空間建築物に多く採用されるハゼ締めタイプの金属製長尺折板屋根その屋根に簡単に設置でき、軒先やケラバ、開口部からの墜落・転落を防止します

## 外　形　図




| 品名 | 大きさ(mm) | 支柱間隔 | 取付可能ハゼピッチ(mm) | 重量(kg) | 品番 |
|---|---|---|---|---|---|
| 支柱 | h 1060 | 1スパン<br>10m以内 | 400・450・500・550・600 | 2.5 | SP-YH |
| ベース | 680X700 | | | 9.0 | SP-YBH |

## 設置手順 （解体は逆の手順でお願い致します。）

①ベースを仮置きし、ハゼ金具のナットをインパクトレンチで緩めておく。

②設置箇所は親綱システムの使用基準に従って計測し位置を決める。
（次ページ表1及び図1）

③4か所あるハゼ金具の口を広げ、ハゼ部に咬ませるように設置する。

④ハゼ金具のナットをインパクトレンチで4か所とも締め込み固定する。

⑤支柱をベース中央のソケット部に差し込む。

⑥ベースソケット部と支柱の穴にトグルピンを貫通させて固定する。

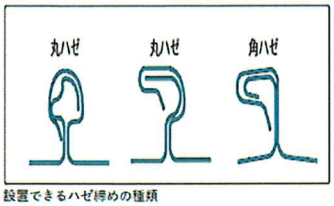
⑦親綱のフックを支柱の取付ピースに掛ける。

⑧親綱を取付け、緊張器を用いて概ね水平になるように緊張して完成。

# 折板屋根用親綱支柱



## 金属折板屋根材の条件



設置できるハゼ締めの種類

①設置できる金属屋根の種類はハゼ締めタイプの折板屋根です。

※ハゼピッチ：400mm、450mm、500mm、550mm、600mm

※板厚：0.6mm～1.2mm

②金属製折板屋根材の強度については当社責任の範囲外となります。

※参考地-ハゼ金具1か所当たり引張許容荷重：250kg

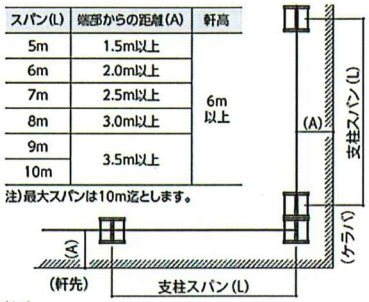
③屋根材にキズ、へこみ及び赤さびによる腐食等、強度の劣化が見込まれる場合、設置は不可となります。

④ハゼ締め加工が終了していない屋根材には使用しないでください。

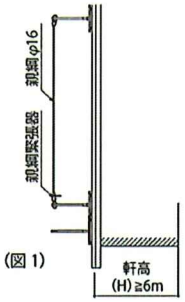
⑤斜度が10%より大きい屋根での使用はできません。

| スパン(L) | 端部からの距離(A) | 軒高 |
|---|---|---|
| 5m | 1.5m以上 | 6m以上 |
| 6m | 2.0m以上 | |
| 7m | 2.5m以上 | |
| 8m | 3.0m以上 | |
| 9m | 3.5m以上 | |
| 10m | | |

注)最大スパンは10m迄とします。

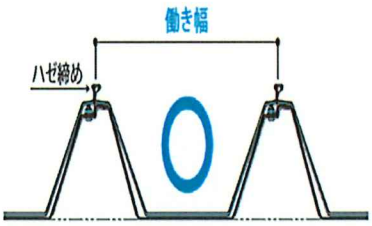


(表1)

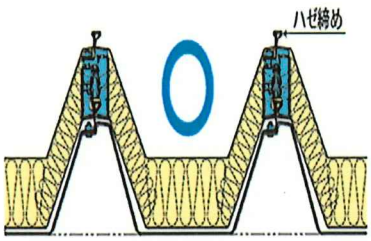


(図1)

ハゼ締めタイプ(設置できる)




ハゼ締め2重葺きタイプ(設置できる)




## 親綱システム使用基準

屋根材の先端部が鋭利で万が一落下した場合、親綱が切れる危険性があるため
親綱が先端部に接触できない距離(A)を設定しています。

①支柱の取付スパン(L)と軒先及びケラバの各々の端部から距離(A)を(表1)に示しています。

②親綱システムは1スパン1人での使用とすること。

③墜落制止用器具のランヤードは織ロープ式とし、安全性の確認されたものを用いて
ランヤードの長さは1.7m以内のものをご使用下さい。

④ショックアブソーバーは伸びの最大値：1.2mのものをご使用下さい。

⑤親綱(ポリエステル製)の外径は16mm以上のものをご使用ください。

⑥親綱に緊張を与えるために親綱緊張器をご使用下さい。(仮設工業会認定品)

⑦親綱システムとして使用する場合、安全ネットの取付は禁止します。

⑧支柱にランヤードのフックを掛けたり安全ブロックを取付けての使用はしないで下さい。

⑨コーナーに使用する支柱には平行、直交の2方向同時に親綱ロープを取付けないで下さい。

⑩墜落等により一度衝撃を受けた部材は再使用しないで下さい。

## 墜落防護工(第2種)用の使用基準

①手摺支柱の間隔は2m以内とします。

②手摺及び中さんは単管パイプ(48.6φ)を使用し兼用クランプにて固定して下さい。

③墜落制止用器具の取付設備としての使用は不可となります。

④墜落防護工として使用する場合、安全ネットを取り付ける事ができますが
風速35m/s以上と予想される時は、安全ネットを取り外してください。

⚠取り扱い上の注意事項

◎ハゼ金具のボルトナットは、ゆるみの無いよう固定して下さい。ナットをねじ込む際は、手で仮締め後、ボルトを垂直に立てレンチ等でゆっくりと締め込んで下さい。また、使用後は同様に支柱ベースに固定して下さい。

◎ハゼ金具の六角ナットのサイズはM10ですので、レンチのソケットは17をご使用下さい。